第61期(2013年3月期)第2四半期決算説明会



2012年11月14日





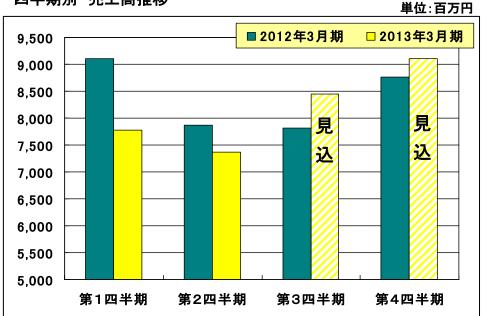


第2四半期連結業績概要

2013年3月期第2四半期

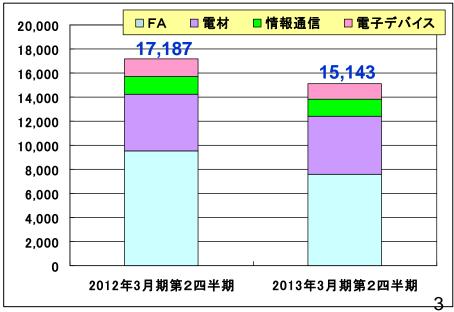
- ◆当社を取り巻く景況は、欧州経済の低迷、中国経済の成長鈍化に伴う 生産・輸出減少や円高等の影響により低調に推移しました。
- ◆主力顧客である電気機器・電子部品・産業機械業界では、 特に半導体・FPD製造装置メーカーの生産抑制の影響を受け、減収減益となりました。

四半期別 売上高推移



第2四半期累計 売上高比較(商品分野)

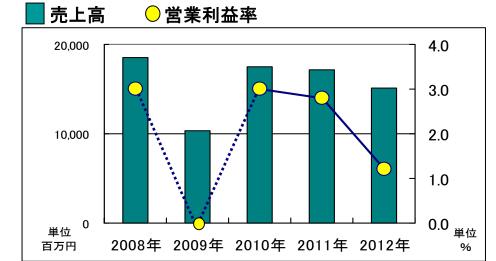


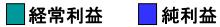


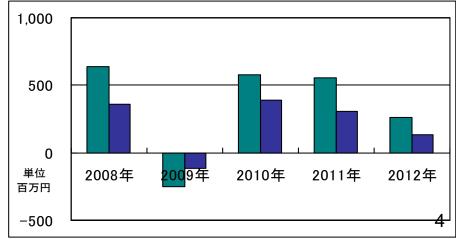
第2四半期連結業績

単位:百万円

	2008年 9月期	2009年 9月期	2010年 9月期	2011年 9月期	2012年 9月期
売上高	18,561	10,382	17,457	17,187	15,143
営業利益	558	▲303	515	487	185
(営業利益率)	(3.0%)		(3.0%)	(2.8%)	(1.2%)
経常利益	636	▲250	581	553	261
(経常利益率)	(3.4%)	-	(3.3%)	(3.2%)	(1.7%)
当期純利益	357	▲ 114	391	306	135
1株当り配当金	8 円	0 円	5 円	4 円	3 円







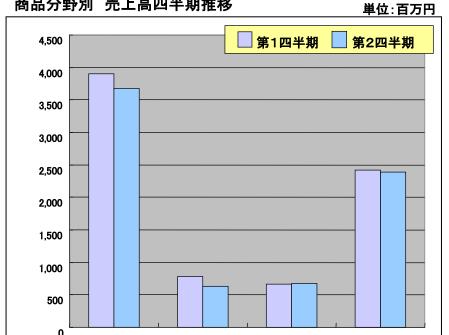
2012年9月期 商品分野別

単位:百万円

	第1四半期	第2四半期	2012年9月期	構成比
FA機器	3,903	3,676	7,580	50.0 %
情報∙通信	784	628	1,412	9.3 %
電子・デバイス	667	673	1,341	8.9 %
電設資材	2,421	2,387	4,809	31.8 %

商品分野別 売上高四半期推移

FA機器

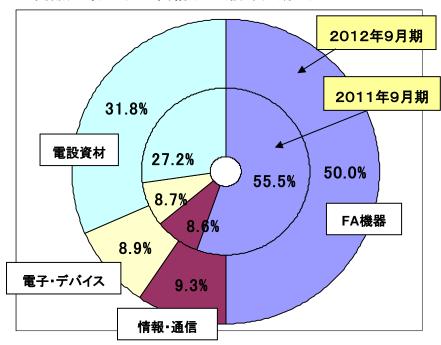


情報·通信

電子・デバイス

電設資材

商品分野別 売上高構成比(前年同期比)



要約 第2四半期連結貸借対照表 (資産の部)

単位:百万円

	2011年9月期	2012年3月期	2012年9月期	増減額(12年3月期対比)
流動資産	14,967	15,939	14,746	▲1,193 (▲7.5%)
(現金及び預金)	4,890	4,183	4,543	360(8.6%)
(受取手形及び売掛金)	7,990	9,756	8,393	▲ 1,363(▲ 14.0%)
(たな卸資産)	1,747	1,661	1,540	▲120(▲7.2%)
固定資産	8,491	8,352	8,216	▲136(▲1.6%)
(有形固定資産)	7,427	7,351	7,252	▲98 (▲ 1.3%)
(無形固定資産)	117	117	116	▲ 0.8(▲ 0.7%)
(投資その他の資産)	945	883	846	▲36(▲4.2%)
資産合計	23,458	24,291	22,962	▲1,329 (▲5.5%)

流動資産減少の主な要因は、現金及び預金の増加3億60百万円、受取手形及び売掛金の減少13億63百万円、 在庫の減少1億20百万円によるものです。

固定資産減少の主な要因は、リース資産の取得による増加42百万円、群馬県前橋市の土地建物等の売却による減少62百万円、減価償却による減少89百万円、投資その他の資産の減少36百万円によるものです。

要約 第2四半期連結貸借対照表 (資本・負債の部)

単位:百万円

	2011年9月期	2012年3月期	2012年9月期	増減額(12年3月期対比)
流動負債	5,784	6,644	5,520	▲1,123(▲16.9%)
(支払手形及び買掛金)	4,489	5,364	4,389	▲974(▲18.2%)
(短期借入金)	606	595	536	▲58(▲9.8%)
固定負債	2,024	1,758	1,580	▲177(▲10.1%)
(長期借入金)	829	547	304	▲242(▲44.3%)
(退職給付引当金)	1,029	1,036	1,068	32(3.1%)
負債合計	7,808	8,402	7,101	▲1,301(▲15.5%)
(資本金)	1,819	1,819	1,819	— (— %)
(資本剰余金)	1,536	1,536	1,538	2(0.2%)
(利益剰余金)	12,481	12,698	12,686	▲11 (▲0.1%)
純資産合計	15,649	15,889	15,861	▲28(▲0.2%)
負債純資産合計	23,458	24,291	22,962	▲ 1,329(▲ 5.5%)

流動負債減少の主な要因は、支払手形及び買掛金の減少9億74百万円によるものです。

固定負債減少の主な要因は、長期借入金の減少2億42百万円によるものです。

純資産減少の主な要因は、当第2四半期連結累計期間の四半期純利益の計上1億35百万円と、未払配当金の支払1億46百万円によるものです。その結果、自己資本比率は69.1%となりました。

7

要約 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2011年9月期	2012年3月期	2012年9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	254	▲80	798
投資活動によるキャッシュ・フロー	413	407	▲ 491
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 460	▲819	▲ 454
現金及び現金同等物の増・減(▲)額	206	▲ 495	▲ 144
現金及び現金同等物の期首残高	4,665	4,665	4,170
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	4,872	4,170	4,025

①営業活動によるキャッシュ・フロー

増加要因は、税金等調整前四半期純利益2億40百万円、売上債権の減少13億64百万円、たな卸資産の減少1億22百万円、減少要因は、仕入債務の減少9億75百万円、法人税等の支払額65百万円によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー 減少要因は、定期預金の預入による支出5億18百万円によるものです。

③財務活動によるキャッシュ・フロー 減少要因は、長期借入金の返済による支出3億円、配当金の支払額1億46百万円によるものです。 2. 第61期(2013年3月期)の見通し

2013年3月期の見通し

- ◆第3四半期後半以降は、生産や設備投資が、緩やかに回復に向かう見通しです。
- ◆第4四半期以降、半導体製造装置メーカーの在庫調整は落ち着き、生産台数は 低調ながらも、実需に見合った部品の発注になると見込んでいます。

あわせて、医療機器業界、メガソーラー(大規模太陽光発電所)を中心とした環境関連 商材の受注拡大を見込んでいます。





FA機器、情報・通信機器、電子・デバイス機器

第3四半期後半より徐々に回復

医療機器業界を中心とした機器組込部品の販売と、期末需要に向けてFA機器の受注拡大を見込んでいます。

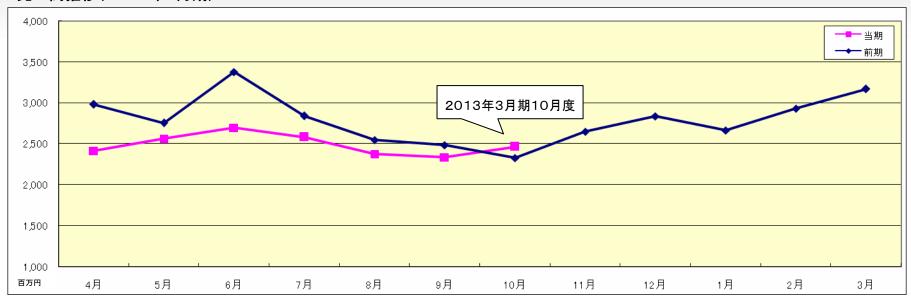
電設資材

上期と同様に、堅調な推移を見込む

継続してLED照明等の受注は増加の見通し。 メガソーラーに使用する架台、接続箱、 受電設備等の受注拡大を見込んでいます。

売上高推移(個別)

売上高推移(2013年3月期)



売上高推移(2008年4月 ~ 2012年10月)

2008年4月=100とした時の推移



通期連結業績予想

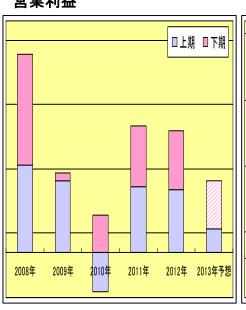
単位:百万円

	2008年 3月期	2009年 3月期	2010年 3月期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年3月期 予想	増減
売上高	41,772	33,034	25,068	34,442	33,938	33,400	▲538 (▲ 1.6%)
営業利益	1,542	620	▲ 14	983	943	560	▲383 (▲40.7%)
経常利益	1,726	746	120	1,125	1,127	770	▲357 (▲ 31.7%)
当期純利益	968	399	93	694	581	420	▲161 (▲27.8 %)
1株当り年間 配当金	33 円	14 円	0円	16 円	14 円	10 円	▲ 4 円

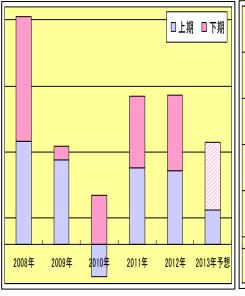


2008年 2009年 2010年 2011年 2012年 2013年予想

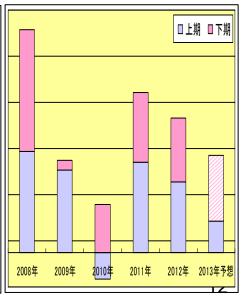
営業利益

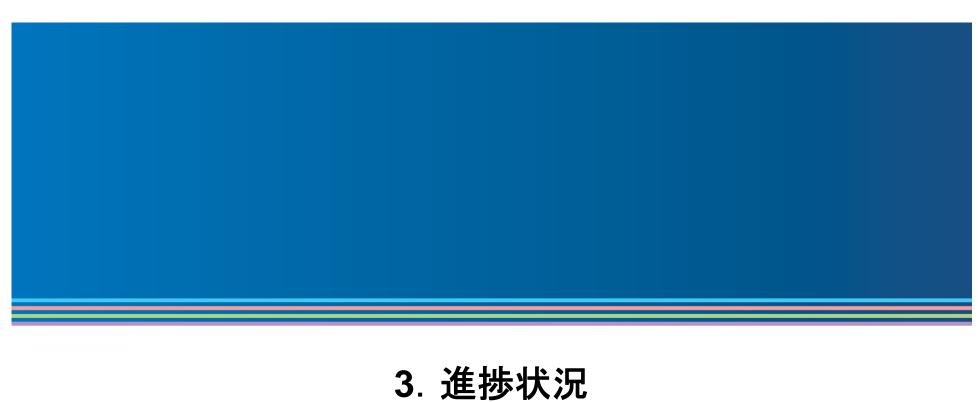


経常利益



当期純利益





景況認識

日本の「もの造り」は国際的な構造変化に直面垂直統合型のビジネスモデルは、崩壊しつつある

<製造工程における付加価値の変化>

付加価値の高い製品が国内に残り、

量産製品は海外への生産シフトが一段と加速

国内工場において、増産目的の設備投資の減少が予想される

産業機械メーカーの海外進出

- ・現地での部品調達
- ・海外メーカー製品の採用

電気機器、電子部品業界国際的な競争が激化

世界経済の低迷

・半導体業界の景況は 急速な回復が望めない

国内で成長が見込める「<u>エネルギー」「インフラ」「医療</u>」 および安定成長が期待できる「食品」に注力。収益を確保する。

1. 新規市場・新規顧客の開拓

【成長・安定業界への継続的取り組み】

(1)医療機器業界

多彩な機器組込用部品、物流/ITインフラ

- ①メディカル営業所の新設
 - ・医療、治療機器メーカーの機器組込需要
- ②医療業界特有の法規制に対する慣習やノウハウを蓄積する
- ③既存医療関連顧客の深耕
- ④MEDIX(医療機器 開発・製造展)出展による新規顧客・商談の獲得(6/20~22開催)

(2)食品業界

主力のFA機器、ハード・ソフトー式提案

- ①顧客を知り、現場課題を解決できる商品・アプリケーション提案の継続
- ②包装機メーカーを含む食品製造機器メーカーの機器組込需要及び 大手食品メーカーのエンジニアリング会社への深耕
- ③FOOMA JAPAN(国際食品工業展)出展による新規顧客・商談の獲得(6/5~8開催)

1. 新規市場・新規顧客の開拓

【 成長・安定業界への継続的取り組み】

(3)環境関連市場

ニーズに合った最適な提案

- ①電力の見える化(計測機器) → 使用量の削減(省エネ機器)提案
- ②LED照明を中心とした省エネ・環境商材提案の継続
- ③機器単体~太陽光発電までの環境に関する総合力の強化

2. WEBビジネスの拡大

(1)インターネット通販サイト FA Ubon(エフエー ユーボン)の強化

- ①会員とコンテンツの拡大
 - ・掲載品目の拡大、検索機能の強化、17時までのご注文を当日出荷
- ②在庫拡充による短納期の実現

(2)大手顧客 集中購買へのシステム対応

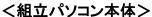
- ①顧客の購買先集約への積極的対応
- ②当社ポータルサイトでMRO市場への対応

3. 大和工場でのもの造り

組立PC(オーダメイドパソコン) 当社の強み

- ① 産業機器向けカスタムPCとして10年以上の販売実績 (累計生産台数 10,000台以上)
- ② パーツ、OSは3~5年の長期供給が可能
- ③ 多彩な搭載可能OSラインナップ
- ④ 産業機器の細かいニーズに対応するため 拡張バス、シリアルポートの追加などを行っています。









17

<組立風景>



ご清聴、ありがとうございました。

【注意事項】本資料に記載されている、スズデン株式会社の現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは異なる結果となりうることをご承知おきください。